

『徒然草』朗読プラン

『徒然草』「神無月のころ」朗読プランー私はこんなふうにもうー

①神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里にたづね入ることはべりしに、
 おちついて 強 高

②はるかなる苔の細道を踏み分けて、心細く住みなしたるいほりあり。木の葉にうづ
 高 高 おちついて おとす

もるるかけ③のしづくならでは、つゆ/おと④⑤ものなし。関伽棚に菊・紅葉など

折り散らしたる、さすがに⑥む人のあればなるべし。
 高

⑦かくてもあられけるよ、とあはれに見るほどに、⑧あなたの庭に、大きな柑子の
 高 高 強

木の、枝もたわわになりたるが/ま⑨りをきびしく困⑩たりしこそ、少しこときめて、
 切 強 だんだんおとす

この木/なからましかば、⑪と覚えしか。
 ゆっくり

高低や強弱に気をつけて、心を込めて一文一文主張すべきところに、特にアクセントをつけて読みたい。「この木なからましかば」は残念そうに読む。

【朗読のポイント】

- (1) 筆者（兼好法師）になりきって、いかにも筆者が語っているかのように読む。
- (2) 筆者の心情が聞き手にも伝わるように読む。
- (3) 朗読は、演じることである。
- (4) 抑揚⇒声の調子を強めたり、弱めたり、高くしたり、低くしたりすることに気をつける。
- (5) 緩急⇒遅いこととはやいことに気をつける。
- (6) 間のとり方に気をつける。